

黒松内中学校エコ改修（校舎棟）

正会員 加藤 誠 君
正会員 金箱 温 春 君
正会員 鈴木 大 隆 君

老朽化対策に加えて消費 CO₂ 削減を目的とした改修プロジェクトであり、大きくは「ひかりのみち」による自然採光と換気、外断熱改修による高断熱・高气密化および躯体保護、減築による耐震性向上が図られている。

なかでも「ひかりのみち」が建築全体の機能・構成を大きく変化させており、吹抜け空間は放課後の自習や部活など、生徒にとってはあたかも大きな家の居間のように、生活の一部として活用されている。環境省の補助対象プロジェクトであるため今年度一杯内部環境の計測を続けるということであるが、ほぼ外気同等だった旧校舎に比べて、夏季・冬季ともにはるかに良好な学習環境が実現されていることは確かである。

11月の現地審査時は時折吹雪く天候であったが、曇天にも関わらず「ひかりのみち」各教室ともに自然光のみで十分明るく、非暖房のまま快適な環境が確保されていた。学校建築では珍しいことと思われるが、窓面にはブラインドが設置され自然光が有効に利用されている。

屋根勾配と風向の関係による自然換気効果については、学校としては小規模物件であるにも関わらず、風洞実験によって検証されている。さらに、立体トラス化して屋根ブレースを廃したトップライト、断熱性の微調整による雪庇対策（内部熱融雪）など、随所に機能・意匠両面にまたがる細かな配慮がうかがえる。一方、各部に残る旧躯体梁断面の痕跡や、既存コンクリートをそのまま残した仕上げは、学校職員の要望だという。既存躯体が逆梁であり開口部を大きく確保できた点などは、旧校舎の特徴が生かされた部分であり、限られた予算の中でできる限りの努力をしてきた先人への敬意が伝わってくる。

職員室を含む管理部門はエントランスと「ひかりのみち」に隣接した位置にあり、常に学校全体の様子に目が届く一方、地域活動等の学校開放時には受付を残し遮断できるなど、柔軟な運用ができるように配慮された構成となっている。電源・LAN ケーブル等の幹線は「ひかりのみち」に接した1階天井部分に配置されているため、保守管理も容易であり今後の設備更新に対応可能な仕組となっている。

3学年で生徒数100名弱と、小規模の学校であるがゆえに可能となる部分も見受けられるが、今後の少子化傾向（加えて残念な現実であるが過疎化の進行）を考慮すれば、既存ストックを長寿命化し、学習環境を向上させつつ余裕のでたボリュームを活用し、地域活動にも貢献する形で学校建築をリプログラミングしていく取り組みは、今後各地において必須のものとなる。そのような発想を先取りするプロジェクトとして高く評価した。

何よりも、職員にとどまらず地域コミュニティ全体の、生徒により良い生活環境を与えたいという意識が強く印象に残る作品である。

よって、ここに作品選奨を贈るものである。